

## 北山公園の生物多様性保全（案）に対する意見

2016/08/21 北川かつぱの会

5月14日の「北山公園整備計画意見交換会」で説明のあった「保全対象種・目標種（案）」、「生物多様性の保全に関する対策の提案」に対する意見は下記のとおりです。

### ■保全対象種・目標種（案）

- ・目標種とは、「北山公園に現在生息・生育している種、あるいはかつて生息・生育していた種の中で、保全や再生が可能と考えられる種。……」と記載されています。たとえば、北川やしょうちゃん池に生息する魚介類の場合、遺伝的に由緒正しい北川系在来種であると思われるものは極めて限定的であると思われます（東京湾から遡上してくるモクズガニやテナガエビなどは該当しませんが）。かと言って、北川やしょうちゃん池に生息する魚介類について、一つ一つDNA解析を行って移入種であれば駆除していくというのも現実的ではないと思われます。遺伝的には北川系在来種かどうか疑わしいとしても、昔生息が確認され、現在も確認されている種については保全対象種ということで考えていきたいと思います。昔生息が確認され、現在は確認されない種については、慎重に対応すべきと考えます（柳瀬川水系や狭山丘陵の他の地域で生息するものについてのみ移入を検討するなど）。
- ・追加を検討すべき保全対象種（魚介類）について →カワニナ。東京湾から遡上してくるモクズガニ、スジエビ、テナガエビ。
- ・保全対象種（鳥類、両生類、昆虫類など） →現状のリストでは、極めて偶発的に確認された種（例；オンドリ（たまたま冬に立ち寄った））、周辺地域に分布していない種（例；ショウリョウバッタモドキ（狭山公園から自力移動は困難）、生態を反映した生息環境の創出が困難な種（例；イカルチドリ（広い砂礫地で繁殖、河原で越冬））が見受けられることから、これらの種については見直しが必要と思われます。なお、タイコウチを保全対象種として検討したらどうかという意見もありました。

### ■生物多様性の保全に関する対策の提案

- ・①盛土等による構造の改良・補修 →現状の菖蒲田のコンクリート壁は問題が多いと思われます。資料に記載されているように両生類の移動を阻害している他、シュレーゲルアオガエルの産卵場を奪っていることから、「目的」欄に「両生類の産卵場を確保する」旨、追記すべきと考えます。
- ・③外来種対策 →「対象となる野生生物」欄に、生態系に大きな影響を与え、現在、微力ながらも駆除活動を継続しているアメリカザリガニを追記すべきと考えます。
- ・⑩ビオトープ造成 →バックヤードだけではなく、園内に点在する小規模な池の護岸には植生もなく、生物の生息空間としてほとんど機能していません。これらを適切に改修する

ことで、両生類や水生昆虫類の生息の場としていければと思います。

- ・(追加①) しょうちゃん池奥の湿地帯へ善行橋側からも水が流れるようにすべきと考えます。→より湿地帯らしくしていくために、湿地帯へのしょうちゃん池からの導水を2箇所から行うようにする(しょうちゃん池の善行橋側からも導水するようにする)。
- ・(追加②) しょうちゃん池の護岸について、もう少し凹凸のついた形に改良すべきと考えます。→池の生物が生息しやすいように、小さな隠れ場所をつくる(玉石を移動させ、凹凸のついた護岸としていく)。なお、(追加①)、(追加②)については、しょうちゃん池の「かいぼり」実施時に作業していく方向としたい。
- ・(追加③) 防火水槽が外来生物(ウシガエルやアメリカザリガニ)の巣窟となっていることから、清掃等の実施をすべきと考えます。
- ・(追加④) 将来にわたり、公園内の水田を維持していくことができるような体制を構築していくべきと考えます。→両生類など生物にとって重要な、また北山公園の景観上も重要な水田(畦の保全も含む)を維持していくために、将来の市民による水田作業を見据えた体制づくりが必要と考える。
- ・(追加⑤) トウキョウダルマガエルなどの両生類にとって重要な生息空間となっている菖蒲田やハス田について、水田と同様な水の管理(少なくとも8月いっぱい水は抜かないなど※)が必要と考えます。→ショウブの株分け作業を行うため、今年は水路の南側の菖蒲田全域の水が、菖蒲まつり終了後、間もない時期から抜かれ、両生類などの希少生物にとって甚大な影響を与えたと考えられる。北山公園に生息、生育する希少生物が絶滅してしまっは元も子もないことから、菖蒲田等について、水を抜く時期や区域について再考し、慎重に対応すべきと考える。ショウブとトウキョウダルマガエルなどの希少生物との折り合いをどう図っていくのか、十分な議論が必要と考える。

※トウキョウダルマガエルの場合、繁殖時期は4月末～7月で、繁殖後、幼生(オタマジャクシ)の形で約1ヶ月半を過ごし変態してカエルになると言われていることから、菖蒲田について、少なくとも8月中は水を抜かないなどの対応が必要と考える。